

大阪府指定出資法人評価等審議会（第2回）

- と き 令和2年6月24日（水曜日）14：30～16：00
- と ころ エル・おおさか本館7階 708会議室
- 出席者 上林 憲雄（神戸大学大学院経営学研究科・教授）
久保 明代（株式会社プロスパー・コーポレーション 代表取締役会長）
坂本 守孝（坂本会計事務所 公認会計士）
八木 正雄（かけはし総合法律事務所 弁護士）
山本 彰子（山本彰子中小企業診断士事務所 中小企業診断士）
吉村 典久（大阪市立大学大学院経営学研究科・商学部 教授）
- 議 事 令和2年度経営目標について（事務局説明）
 - （1）（一財）大阪府みどり公社
 - （2）（公財）大阪府漁業振興基金
 - （3）（公財）西成労働福祉センター
 - （4）（公財）千里ライフサイエンス振興財団

（1）（一財）大阪府みどり公社

資料に基づき、事務局から令和2年度経営目標案の説明

委員：最重点目標のプロセス指標である「地域への働きかけ」の回数設定は、新型コロナウイルスの影響を見込んだ実施可能なものとなっているのか。

事務局：この指標は、自治会や組合等への働きかけであり、新型コロナウイルスの影響が一定ある中でも、会場の広さや参加人数等の対策により実施が可能と聞いている。

委員：最重点目標にかかる戦略目標に、「多様な担い手」というワードがあるが、遊休農地の解消等の目的に向けて、どういった所と連携を行うべきかや、連携先の検証、連携先を探すこと等は行っているのか。また、PDCA サイクルを回して、より良い効果が出るよう対応されているのか。

事務局：法人に確認する。

（2）（公財）大阪府漁業振興基金

資料に基づき、事務局から令和2年度経営目標案の説明

委員：「栽培漁業センター見学者数」は、法人の責めに帰さない理由で見学者数が減少し、目標未達成となっているように思うが、今後も指標として設定したいと考えているのか。

事務局：施設の改修工事期間中は除くが、主に小学生を対象としてできるだけ多くの見学者を呼び込み、法人としても栽培漁業のPRに繋げていきたい考えと聞いている。

委員：PR については、所管部局においても、法人に期待する重要なミッションとして考えているのか。

事務局：部局に確認する。

委員：最重点目標の考え方に、「放流効果の高い魚種への特化」という記載があるが、これはどういう意味なのか。

事務局：例えばキジハタなどの定着性がある魚種の放流を行うことで、大阪湾の漁業資源の充実を図ることができるという趣旨で記載している。

(3) (公財) 西成労働福祉センター

資料に基づき、事務局から令和2年度経営目標案の説明

委員：「生産性の向上」について、仮事務所への移転の初年度は水道光熱費のデータが無いため、無理に目標を設定する必要はないのではないか。来年度は今期のデータがあるので、改めて目標として設定してはどうか。

事務局：法人に確認する。

委員：利用者カードの普及の累計とはどういう数字か。

事務局：一人に対して1枚発行するもので、平成23年度から利用者カードを作り始めており、その累積である。

委員：新型コロナウイルスの影響で、外国の方も多く離職しており、来年度は労働者数が伸びるのではないかと思うが、そのあたりは目標値の500枚に加味しているのか。

事務局：求人数が減少するとともに、外出の自粛もあって労働者も求職に来ない状況であり、人の流入が増えるという予想にはなっていないと聞いている。

委員：最重点目標の「就職率」について、法人経営者の考え方で最重点とする理由に「また、政府は労働条件の改善や外国人労働者の受け入れ拡大を通じて」とあるが、それは中長期には言えるかもしれないが、今年度は新型コロナウイルスの影響で厳しい状況にあり、記載内容と合わないのではないか。

委員：令和2年度における考え方を書いた方が良いと思う。法人に伝えてほしい。

事務局：承知した。

(4) (公財) 千里ライフサイエンス振興財団

資料に基づき、事務局から令和2年度経営目標案の説明

委員：「千里ライフサイエンスセミナーの参加者数」について、著名な講演者を呼ぶなど内容を工夫すれば参加者数の目標を上げられるのではないか。

委員：既に相当著名な方を呼んでいるのではないか。そうでないと満足度89%はいかないと思う。

委員：満足度の目標は90%にできないのか。

事務局：法人としても高い値を目指すべきと思っているが、実際はなかなか難しく現状維持の89.3%としている。

委員：セミナーはウェブで開催できないのか。

事務局：昨年度、ウェブでのセミナー開催も試みたが、セミナーの様子をウェブに掲載することを望まない出演者もいるなど、調整が難しいと聞いている。

委員：昨年度はそうだったかもしれないが、今般の新型コロナウイルスの影響で、最近はウェブ上で会議を行うことが一般的になるなど状況も変わっていると思うので、検討してほしい。

事務局：法人に確認する。

委員：「千里ライフサイエンスセミナーの参加者数」の目標のウエイトを昨年度は5点だったものが今年度は30点としているが、この目標に集中しすぎていると感じる。今後、新型コロナウイルスの第2波第3波がくれば、目標達成が厳しくなる。例えばライブ配信について、出演者がウェブ掲載を望まないのであれば参加者を限定する方法もあるはず。ライブ配信の手法等も含めて目標設定すべきと思うので、違うアプローチを今年は実行されてもいいのではないか。また、「効率的・効果的な資金運用」については、外貨での運用をする時点で当然に為替リス

クを考えていなければならないもの。新型コロナウイルスの影響による為替の変動というのは世界的に起こっており、それを理由に目標を下げるというのは納得できない。

事務局：「千里ライフサイエンスセミナーの参加者数」のウエイトについては法人に確認する。「効率的・効果的な資金運用」については、確かに外貨なので為替リスクもあるが、資金運用に関係するものは米ドルと豪ドルの2つであり、発展途上国ではないためそこまでのリスクを想定していなかった部分もある。今回の新型コロナウイルスによる影響が出る見込みを踏まえ、中期経営計画より500万円下げた目標値としているところ。

委員：豪ドルは、もともと変動が激しくリスクがあるもの。公的な機関であればもう少し安定的なところを目指すべきではないか。

事務局：法人に確認する。

委員：先ほどと重複するが、最重点目標の「千里ライフサイエンスセミナーの広域的参加者率」の昨年度のウエイトは25点、そのプロセス指標の「参加者数」が5点だったが、今回、新型コロナウイルスの影響で、プロセス指標である「参加者数」に絞って、ウエイトを30点とすると、他の成果指標との関係で少々いびつに見える。他の目標のウエイトを見直すことはしないのか。

事務局：法人としては、ライフサイエンスセミナーは若手研究者の育成に役立つものとして重要視し、セミナーに比重を重く置いている。また、最重点目標は法人が一番取り組むべきものとして設定するものであり、目標設定のルール上、ウエイトは30～50点としているところ。

委員：最重点だから項目は1つしかないので、ウエイトを高くせざるを得ないということか。

委員：これまで広域的参加者率のウエイトが大きかったが、令和2年度については新型コロナウイルスの影響で参加が望めないのであれば、例えば、指標をウェブでの参加者数等に変えてはどうか。

委員：そういう意見が出たということ、法人に伝えてもらいたい。

委員：ネット配信での参加者を指標にすれば良いのではないか。もしそれが実現すれば、セミナー参加者の目標を上げることになると思うので、そこも含めて法人に伝えてほしい。

事務局：承知した。プロセス指標を設定したり、目標を分けて設定するなど、何か工夫が出来ないか法人と相談する。